

## 松平郷園地

松平郷園地は、松平東照宮から高月院へ向かう松平郷の中心道路沿いにある約 5 エーカーの公園である。この公園は、松平家がこの地を支配していた 14～15 世紀の地域の風景をイメージして作られたものだ。春から秋にかけて季節の花々が咲き乱れる。3～4 月には桜、初夏には花菖蒲や紫陽花、秋には萩が咲き、赤や黄色の紅葉が彩りを添えてくれる。公園内にはせせらぎが流れ、小さな池もある。6 月の夕方には小川の周辺でホタルが見られることもあり、池にはハッチョウトンボが生息している。

公園の西側入口から続く道は、松平家の創設者である松平親氏（伝 1394 年没）の銅像へと続いている。道の両側には 7 本の石柱が立っていて、銅像とともに、徳川家と日本を 1603 から 1867 まで支配した徳川幕府を設立した、9 代目徳川家康（1543-1616）の前の松平家 8 代を表している。

東口の近くには「天下茶屋」というレストランがあり、うどんやそばなどの軽食やスイーツを提供している。串に刺さった三つの小さなお餅からなる「天下餅」は、日本の「天下人」3 人を象徴している。織田信長（1534-1582）、豊臣秀吉（1537-1598）と徳川家康だ。家康の餅が餡でトッピングされており、松平郷にゆかりがあることと、3 人の中で唯一、永続的な政権を樹立したことを表している。